

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和 8 年 1 0 月 1 日

枚方市立第一中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の概要

○国語について

- ・平均正答率は、全国平均を上回る。
- ・領域別では、「A 話すこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の全領域で全国平均を上回る。

<成果>

- ・記述式・「思考・判断・表現」の観点で最も強く、根拠を踏まえて自分の考えを書く場面で全国を大きく上回る。
- ・「書くこと」「読むこと」の領域で全国を大きく上回る。
- ・必要な情報に着目して要約・解釈する力が高水準。
- ・無解答率が低く、記述問題を書ききる姿勢が身に付いている。

<課題>

- ・漢字を書く力
- ・「話すこと・聞くこと」の領域

○数学について

- ・平均正答率は、全国平均を上回る。
- ・領域別では、「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」の全領域で全国平均を上回る。

<成果>

- ・「データの活用」の領域で、統計的指標の意味理解と目的に応じた選択・判断が全国を大きく上回る。
- ・記述式・「思考・判断・表現」の観点で、根拠を明確にして数学的に説明する記述で全国を大きく上回る。
- ・「関数」領域で、表・式・グラフを相互に関連付けることができている。
- ・知識・技能の基礎が身についている。

<課題>

- ・図形領域における平行条件の把握をはじめとした、証明の前提となる条件（仮定・図の情報の読み取りは、全国並み）。
- ・記述式は、全国比では大きく上回るが、記述式全体は50%を下回る。

○英語について（書くこと・読むこと・聞くこと）

- ・領域別では、「聞くこと」「読むこと・書くこと」の全領域で全国平均を上回る。

<成果>

- ・「書くこと」の領域で、条件が具体的な英作文について、全国を大きく上回る。
- ・読むこと・書くことを合わせた「技能」も全国を大きく上回る。
- ・必要情報を聞き取る・読み取る力について、目的・状況に応じた情報検索型のリスニングやリーディングができている。

<課題>

- ・概要把握・話の流れの理解について、時系列やストーリー全体の流れを踏まえて概要を把握する場面で全国を下回る。まとまった英文全体の要点を統合的に捉える力を伸ばすことが必要。
- ・書くことについては、全国比では大きく上回るが、社会的話題への意見や、意見・理由などについて書けるようになることが必要。

3 教科に共通する内容

○成果

「必要な情報を的確に捉え、根拠を明確にして自分の考えを表現する力」が身に付いている。

3教科いずれも「情報を正確に読み取る → 根拠を整理する → 自分の言葉・式・英文で筋道立てて表現する」という共通の思考・表現プロセスが定着している。無解答率が低く、記述問題を最後まで書ききる姿勢が共通して身に付いている点は本校の大きな強みである。

○課題

「複数の情報や文章全体の流れを結び付けて統合的に捉えること」や「社会的な話題について意見や感想を筋道を立てて述べること」に課題がある。

記述式については全国比では上回るものの、全体正答率が50%を下回る教科もあり、より複雑な題材や社会的な話題に対しても、事実や根拠、自分の考えを表現できる力の引き上げが今後の課題である。

石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の「石井さんが書いている随筆」を読んで、あとの問いに答えなさい。(1から5は、段落の番号を表します。)

「石井さんが書いている随筆」

- ① 私には趣味がある。休日になると、私は自転車のハンドルを握りしめ、目的地へ向かう。そして、その日の気持ちに合った景色を見付けては、スケッチブックに写しとる。私の趣味は絵を描くことだ。相棒であるスケッチブックは、今使っているもので四冊目になる。今までに描いた絵を見返すと、その時々私の気持ちを相棒が教えてくれる。これも絵を描く楽しみの一つだ。
- ② 三月のある日曜日。その日は、朝から気が重くて、朝食をとっても元気が出なかった。それでも、私は自転車で十五分の大きな公園に向かった。しかし、そんな日に限って、強い向かい風が私に吹き付ける。坂のない平たんな道のりが、とても長く感じられる。何度も引き返そうかと思ったが、なんとか公園にたどり着いた。
- ③ 休日を過ごす人々で公園はにぎわっていた。そんな姿を見ると、絵を描こうという気持ちが自然とわいてきた。私はベンチに腰掛け、鉛筆を走らせる。公園で休日を楽しむ人々の姿をスケッチブックに写しとった。
- ④ 帰りは、進む方向が変わり、私を苦しめたあの向かい風が追い風になった。風が私の背中を押して、自転車はぐんぐん進んでいく。私の気持ちもどんどん明るくなって、ペダルをこいだ。道の途中、横風や向かい風になるときもあるが、気にならなかった。「もう一枚描いてから帰ろうかな。」家の近所の小さな公園で自転車を止めた。
- ⑤ 同じ風でも、自分の向き合い方が変わると感じ方も変わることを知った。どんなことも自分次第なのだ。この日描いた二枚の絵には、そんな私の気持ちが表れている。

三 石井さんが、「石井さんが書いている随筆」のような展開にした意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 経験から新たな問いが生まれる展開にすることで、読み手が文章の続きを想像して読めるようにした。
- 2 経験から気付きを得たという時間の流れに沿った展開にすることで、書き手に寄り添って読めるようにした。
- 3 書き手が気付いたことを文章の始めと終わりに示す展開にすることで、最も伝えたいことを強調するようにした。
- 4 同じ場面を文章の始めと終わりに示す展開にすることで、同じ出来事が繰り返されることに読み手が気付けるようにした。

国語において成果があった設問

3 三

文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する

考察

段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる問題。

本校生徒は、書き手に寄り添って読めるように、経験から気付きを得たという時間の流れに沿った展開でを捉えていると考えられる。これは、書き手の意図を段落構成から読み取る力（必要な情報に着目して要約・解釈する力）が身に付いていると考えられる。

国語において成果があった設問

4 四

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子
と擬態語の効果を書く

考察

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かな
ものにすることができるかどうかをみる問題。

「擬態語が表す具体的な様子」と「本文中の言葉を用いた擬
態語の効果（包括的イメージ・様子を映し出す働き）」の両方
を書くことが正答条件とされていた。

本校生徒は、文章を理解し、具体的な場面を思い浮かべ、理
解したことを結びつけて自分の考えを表現できている。無解答
率も低く、「根拠を踏まえて自分の考えを書く力」が強みとし
て確認できる。



〈具体的な場面〉

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

国語において課題があった設問

3- (1)

文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する

考察

文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題。

「採る」について、文脈に即して正しく漢字を書くことができなかったと考えられる。「取る／採る／捕る／執る」のように同音で意味の異なる漢字を、文脈に応じて選び分ける力に弱さがあると推察される。記述式や読解では強みを発揮できている一方で、語句レベルの知識・技能に不安定さが残る点は、今後の指導の課題とする。

□る
必要な物を入れて、集める。
「きのこを□る」

取る
持つ。握る。得る。除く。
「手に取って見る」
「免許を取る」

捕る
つかまえる。
「魚を捕る」
「外野フライを捕る」

撮る
カメラなどで写す。
「写真を撮る」
「記録映画を撮る」

【文書作成ソフトに表示された意味と用例】

何をして遊ぶか多数決をとる子どもたち、飼い主が投げ上げたボールを落とさずにとる犬、遠くの美しい山並みをとる人。

【石井さんが書き加える一文】

— 石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の < のところに、一文を書き加えようとしています。次の【石井さんが書き加える一文】と【文書作成ソフトに表示された意味と用例】を読んで、あとの問いに答えなさい。

(2)

【文書作成ソフトに表示された意味と用例】を参考にして、

【石井さんが書き加える一文】の『線部アとイの正しい漢字の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から3までの中から一つ選びなさい。』

3	2	1
ア	ア	ア
取る	撮る	捕る
イ	イ	イ
捕る	取る	撮る

(1)

【石井さんが書き加える一文】の「多数決をとる」と【文書作成ソフトに表示された意味と用例】の「□る」の『線部には同じ漢字が入ります。「多数決をとる」の『線部のひらがなを漢字に直し、楷書でいいねに書きなさい。』

合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」、「話し合いの一部」、「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



「アンケートの結果を示した画面」

「話し合いの一部」

〈目標を達成するための課題〉

- ・歌声に強弱がつけられていない。
- ・高い音の部分がうまく歌えない。
- ・歌い出しのタイミングがそろわない。
- ・練習を始めるまでに時間がかかる。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

山下

私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで〈目標を達成するための課題〉として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。①まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか。

石川

そうですね。〈目標を達成するための課題〉を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるものの二つに分けられるのではないのでしょうか。

山下

私もそう思います。例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

石川

「歌い出しのタイミングがそろわない」もそれに入ると思います。

大森

そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」、「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下

まずは、〈目標を達成するための課題〉を二つに分けられましたね。

「話し合いを受けて整理した画面」

〈音楽科の先生に相談すること〉

- ・歌声に強弱をつけたい。
- ・高い音の部分をうまく歌いたい。

〈自分たちで取り組むこと〉

- ・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
- ・集まったらすぐに練習を始めよう。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

山下

いろいろな意見が出たので、今まで話し合ったことを受けて、〈音楽科の先生に相談すること〉と〈自分たちで取り組むこと〉に整理してみました。②どうでしょうか。

大森

先生や学級のみんなに伝える言い方になってよいと思います。

石川

この内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

山下

そうですね。では、この〈自分たちで取り組むこと〉は、学級のみんなにどのように伝えようでしょうか。

大森

この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことをいつでもまとめて確認することができるので、練習するときに気を付けることができると思います。

石川

私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。

山下

二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきたいと思います。③「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えようでしょうか。

国語において課題があった設問

2 四 話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く

四

【話し合いの一部】で山下さんは、——線部④「『美しい歌声を響かせよう』という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。」と投げかけています。これを受けて、あなたならどのような意見を述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、この場の三人に実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 学級のみんなにどのように伝えたらよいかについて、自分の考えと理由を書くこと。

条件2 条件1について、大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書くこと。

考察

互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる問題。

互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話し合いが進展するように自分の考えをまとめ、実際に話すように書くことが必要であった。

本校生徒は、記述式・「思考・判断・表現」で全国を大きく上回る一方、この設問のように「聞き手を想定して話すように書く」場面での対応には課題が残った。「話すこと・聞くこと」の領域の弱さが表れた設問であり、書く力を「対話の文脈に位置付けて使う」段階への接続が、今後の課題である。

数学において成果があった設問

9 (1)

全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める

考察

累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題。

本校生徒は、データの分布について、ヒストグラムや相対度数などを理解し、累積度数の意味を理解できている。統計的指標を用語として覚えるのではなく、ヒストグラム・相対度数と関連付けながら理解できていることを示しており、「データの活用」領域で、統計的指標の意味理解と目的に応じた選択・判断ができることにつながっていると考えられる。

9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにしました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
4 ~ 5	1	
5 ~ 6	14	
6 ~ 7	75	ア
7 ~ 8	126	
8 ~ 9	62	
9 ~ 10	20	
10 ~ 11	2	
合計	300	

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の **ア** には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。**ア** に当てはまる値を求めなさい。

数学において成果があった設問

6 (3)

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する

考察

統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題。

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明することが必要であった。本校生徒は、根拠を明確にして数学的に説明する記述で全国を大きく上回っており、この設問においても、2数の差を捉えて言葉・式で表現する力が発揮されていると考えられる。「言葉・式・図」を用いた表現活動が単元横断的に位置付けられている成果が表れている。

6 次の手順で、2つの3けたの自然数をつくります。

手順

- ◇ 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。(例：1と2)
- ◇ 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。(例：212)
- ◇ 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。(例：121)

陸斗さんと夏帆さんは、上の手順にしたがってできたAとBについて、 $A + B$ の値がどんな数になるかを調べました。

選んだ2数が1と2のとき、Aは212、Bは121となり、 $A + B = 212 + 121 = 333 = 111 \times 3 = 111 \times (1 + 2)$

選んだ2数が3と5のとき、Aは535、Bは353となり、 $A + B = 535 + 353 = 888 = 111 \times 8 = 111 \times (3 + 5)$

選んだ2数が2と7のとき、Aは727、Bは272となり、 $A + B = 727 + 272 = 999 = 111 \times 9 = 111 \times (2 + 7)$

これらの結果から、陸斗さんは次のように予想しました。

陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、 $A + B$ の値は、選んだ2数の和の111倍になる。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 次の調べたことは、選んだ2数が2と4のときと、3と6のときについて、前ページの陸斗さんの予想が成り立つことを確かめたものです。次の に当てはまる式を書きなさい。

調べたこと

選んだ2数が2と4のとき、Aは424、Bは242となり、 $A + B = 424 + 242 = 666 = 111 \times 6 = 111 \times (2 + 4)$

選んだ2数が3と6のとき、Aは636、Bは363となり、 $A + B = 636 + 363 = 999 = 111 \times 9 =$

(2) 前ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことは、選んだ2数について、具体的な数ですべての場合を調べなくても、次のような方針を考えて説明することができます。

方針

- ① 選んだ2数を文字で表し、その文字を用いて、AとBをそれぞれ文字式で表す。
- ② $A + B$ を計算し、 の形に変形できることを示せば、陸斗さんの予想がいつでも成り立つといえる。

方針の に当てはまるものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

- ア $111 \times (\text{整数})$
- イ $111 \times (1 \text{ けたの自然数})$
- ウ $111 \times (\text{選んだ2数の和})$
- エ $111 \times (A \text{ と } B \text{ の和})$

(3) 7ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを文字を用いて説明した陸斗さんと夏帆さんは、次に、手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを考えることにしました。

選んだ2数が1と3のとき、 $A - B = 313 - 131 = 182$
選んだ2数が4と7のとき、 $A - B = 747 - 474 = 273$
選んだ2数が5と9のとき、 $A - B = 959 - 595 = 364$

二人は、 $A - B$ の値について話し合っています。

夏帆さん「182、273、364は、どんな数なのかな。」
陸斗さん「例えば364は、選んだ2数の5と9の差である4と関係があるかもしれないね。」
夏帆さん「選んだ2数の差の何倍かになっていないかな。」

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値は、選んだ2数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。7ページの陸斗さんの予想のように、下の に当てはまることを「 は、 になる。」という形で書きなさい。

手順にしたがってできたAとBについて、

数学において課題があった設問

3

四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く

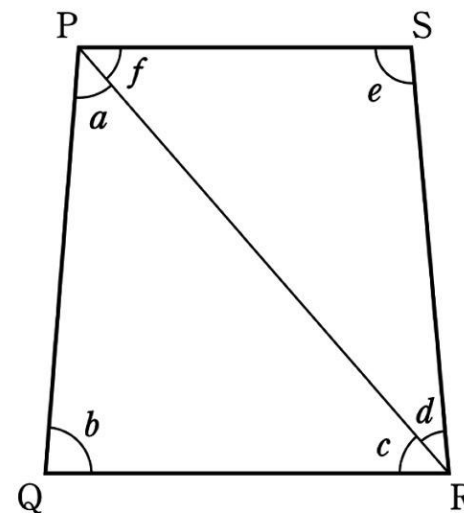
考察

2 直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題。

2 直線が平行になるための条件を理解し、二つの角の位置関係を捉えることが必要であった。本校生徒は、この条件把握で全国並みにとどまっており、図形領域の中でも、前提となる条件を正しく把握する力に課題がある。

3

下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。

数学において成果があった設問

9 (3)

「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する

考察

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる問題。

「就寝時刻が23時より前の生徒に比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」ことが主張できる根拠として、二つの度数分布多角形が同じような形で、23時より前に就寝した生徒の度数分布多角形よりも23時以降に就寝した生徒の度数分布多角形の方が左側にあることを説明する必要がある。「データの活用」領域そのものは全国を大きく上回っている一方、この設問のように、根拠を段階的に言語化して記述する場面では、形の比較と位置関係（左側にある）の両方に踏み込むことに難しさが残る。「記述式全体は半数を下回る」という課題が表れた設問であり、「言葉・式・図」を用いた表現活動をさらに記述まで高めていくことが今後の課題である。

9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の傾向について、保健だよりで報告することにしました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

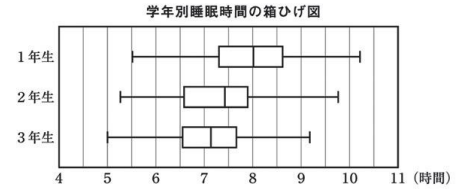
次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表		
階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
4 ～ 5	1	
5 ～ 6	14	
6 ～ 7	75	ア
7 ～ 8	126	
8 ～ 9	62	
9 ～ 10	20	
10 ～ 11	2	
合計	300	

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の「ア」には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。「ア」に当てはまる値を求めなさい。

(2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるかになりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。



学年別睡眠時間の箱ひげ図から、次のことがわかります。

1年生は、「I」がおおよそ8時間であることがわかる。
2年生と3年生は、「II」が7.5時間以上8時間未満の値であることがわかる。
よって、睡眠時間が8時間未満の生徒の割合は、1年生より2年生と3年生の方が大きい。

上の「I」、「II」のそれぞれに当てはまる言葉を、下のアからオまでの中から1つずつ選びなさい。

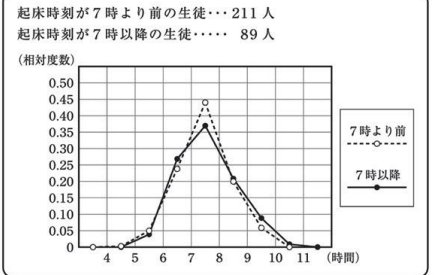
- ア 最小値 イ 最大値 ウ 中央値
エ 第1四分位数 オ 第3四分位数

(3) 二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が7時より前と7時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

桃音さんが調べたこと



桃音さんは、上の2つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

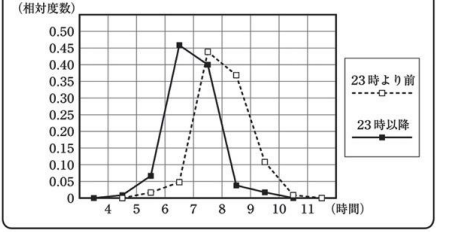
桃音さんのまとめ

2つの度数分布多角形は同じような形である。また、2つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が7時より前の生徒と7時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒…152人
就寝時刻が23時以降の生徒…148人



悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

英語において成果があった設問

13

留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く

考察

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題。

3つの具体的な条件（①一緒にしたいこと、②その理由、③語数）を意識し、「意見＋理由」の型を用いて、まとまりのある文を書くことができていた。「意見＋理由」の型、「導入－本論－結論」「主張－根拠」などの文章構成を意識した指導の成果と考えられる。

13

あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「トムと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。

What do you want to do with Tom?

【例】



The image shows a green chalkboard with the title 'What do you want to do with Tom?'. Below the title, there are three small illustrations. The first illustration shows two boys, one with a soccer ball and one with a tennis racket. The second illustration shows two girls, one cooking at a stove and one chopping vegetables. The third illustration shows two boys playing cards on a table. Below the illustrations, there is a small orange box.

<解答欄> ※半角で入力してください

0 / 最大999 単語

英語において成果があった設問

8

友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する

考察

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題。

「Friday to Sunday」かつ「Japanese sweets」の2条件を同時に満たすサイトを選び、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取ることができていた。目的・状況に応じた情報検索型リーディングで必要な情報を選択的に読み取る指導の成果である。

8

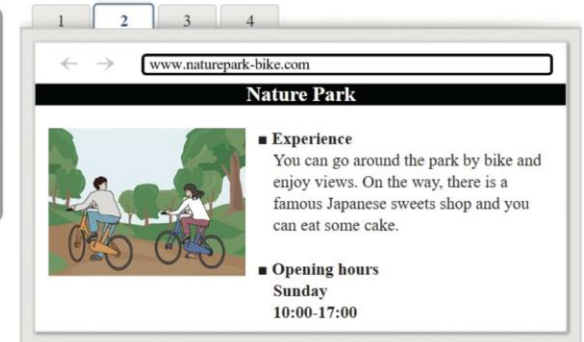
あなたは、友達ジョン(John)から次の【メッセージ】を受け取りました。【メッセージ】の内容を基に、【4つのウェブサイト】から、ジョンに紹介するウェブサイトとして最も適切なものを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。タブを選択しただけでは、解答したことになりません。

【メッセージ】

John

How are you? I have a question. My friend, Bob, and his family are coming to our town next Friday and Saturday. Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.

【4つのウェブサイト】（下の番号を選ぶとタブを切り替えられます）



＜解答欄＞

- ☐ 1 Hot Spring
- ☐ 2 Nature Park
- ☐ 3 Art Museum
- ☐ 4 Temple

英語において課題があった設問

9

物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する

考察

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる問題。

「excited → sad → happy」という物語全体の流れと出来事を結びつけて概要を捉える設問であった。短い文章（物語）を読み、概要を捉える力、特に心情の変化を時系列で追う読解に課題がある。まとまりのある文をはじめから終わりまで読み、一語一語や一文一文の意味にとらわれることなく、大まかな内容を捉える力を身につける必要がある。

9

次の文章は、留学生(exchange student)のジャック(Jack)が日本の学校で体験したことを題材にした【物語】です。【物語】のはじめから終わりまで、ジャックの気持ちがどのように変化したかをまとめたものとして最も適切なものを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【物語】

Jack studied Japanese at school when he was in Australia. The school decided to send him to Japan as an exchange student, so he was excited about studying in Japan.

At school in Japan, Jack made a short speech in Japanese. When he was speaking Japanese, he made mistakes. He thought his classmates did not understand his speech. He felt sad, but he finished his speech.

Later at lunch time, a girl came to Jack and said, "I'm Misato. Your speech was great! I was able to understand your Japanese." Jack smiled and said, "Thank you for your kind words." He felt happy. After that, he tried to use Japanese more.

<解答欄>

- ☐ 1 Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.
- ☐ 2 Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.
- ☐ 3 Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.
- ☐ 4 Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

英語において課題があった設問

4

職場体験についての発表を聞き、その後示される3枚の絵を体験した順になるように選択する

考察

日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる問題。

正答条件は「In the morning / After lunch / Finally」の時間経過と出来事を順序立てて把握することであった。1つの話題に沿って話されるものなどをはじめから終わりまで聞き、「読み」の課題と同様、一語一語や一文一文の意味にとらわれることなく、大まかな内容を捉える力を身につけることが必要である。

4

【画面1】

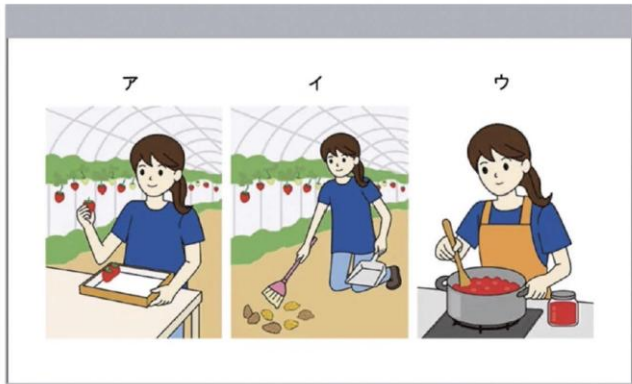
<問題文>
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの3枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、1つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ → ② 選択肢から選ぶ → ③ 選択肢から選ぶ

【画面2】

<問題文>
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの3枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、1つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ → ② 選択肢から選ぶ → ③ 選択肢から選ぶ

英語の音声スクリプト【画面1】

I had work experience at a strawberry farm last week.
In the morning, I made strawberry jam. I put strawberries and sugar into a pot, and cooked them.
After lunch, I picked strawberries. I checked their sizes and colors. I put them into the box.
Finally, I cleaned around the farm. I saw old strawberry leaves on the ground, so I collected them.
The work was hard, but I had a great experience.

英語（話すこと）

○成果

「話題を取り上げ、理由を添えてまとまりのある内容を話す力」と「あきらめずに話そうとする態度」

「自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる問題」など理由を話す力が全国を上回る。

また、無解答率は全てで全国を下回る。

○課題

「相手の発話に即興で応じ、その場面に合った表現を話す力」

「電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える（音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題）」などのやりとりに課題がある。

今後は、授業中の帯活動などで「やり取り」についてペアでの即興Q & AやSmall Talkなどの取組が必要。

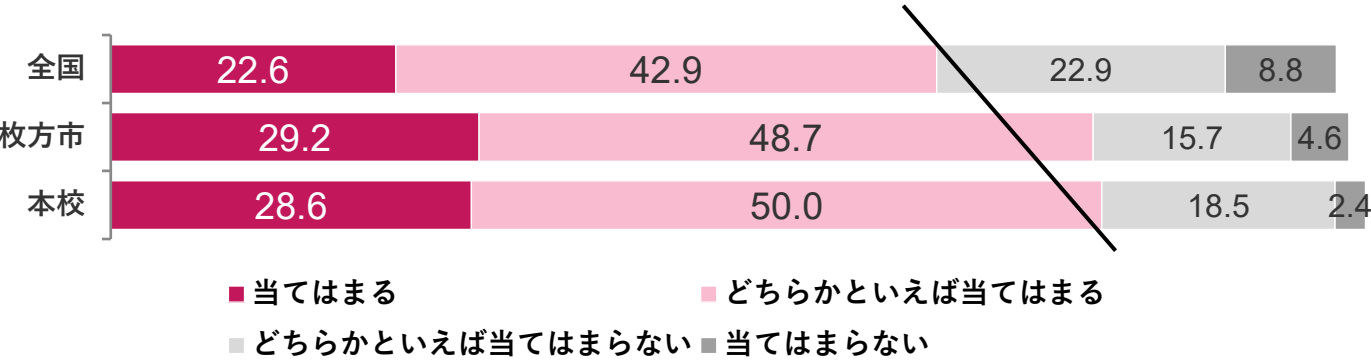
質問紙調査の結果【成果が見られた項目】

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

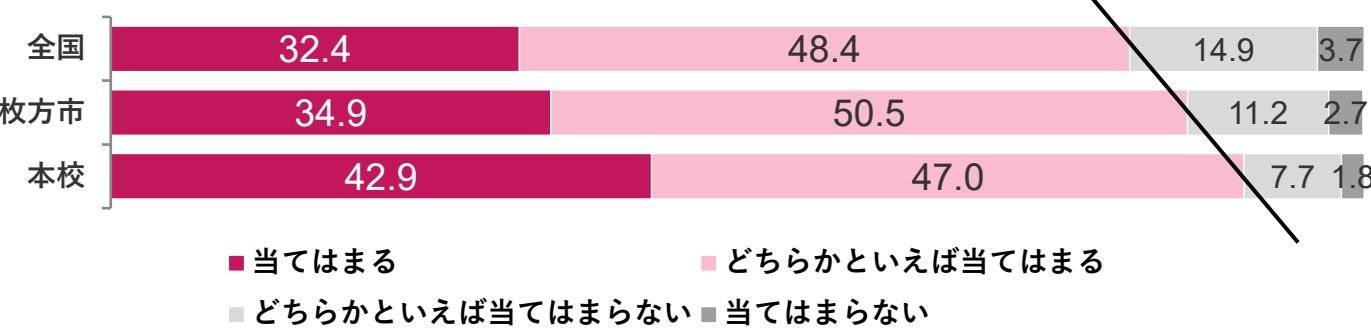
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた



(考察)

発表の工夫やまとめる活動が全国比で突出している。表現活動（アウトプット）が本校最大の強みである。

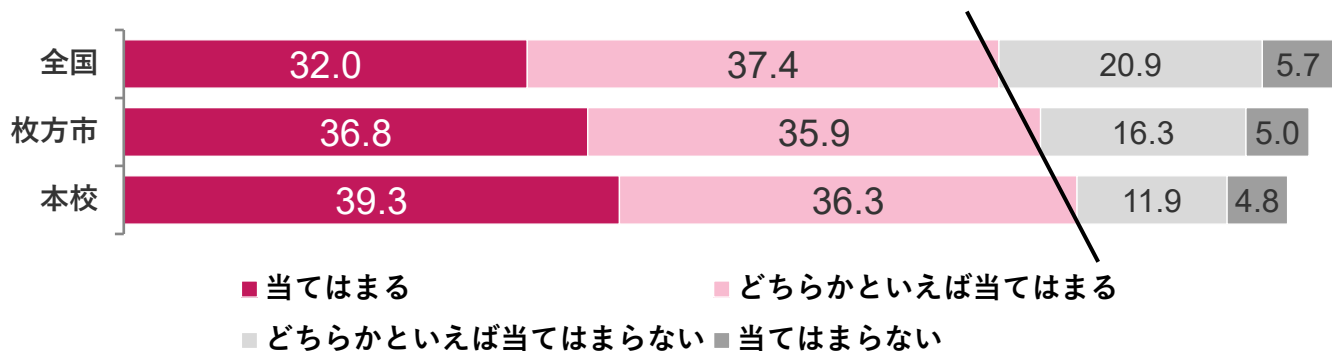
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



(考察)

総合的な学習の時間の課題探究とICT活用も全国比で突出している。探究学習の組織的取り組みの成果と考えられる。

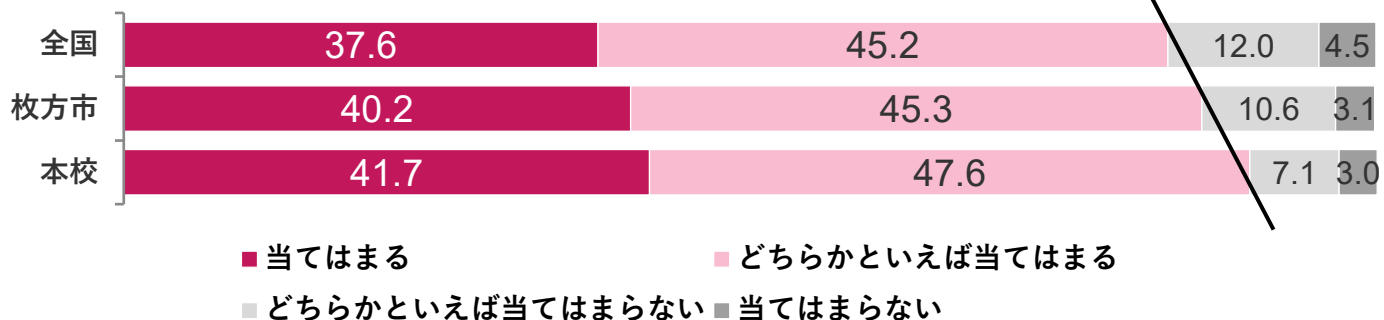
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



（考察）

ICT活用の実践力（情報整理・英語入力・プレゼン作成）が全国を上回っている。
また、ICT活用の実践力と各教科の正答率にも相関関係が認められている。

1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか



（考察）

英語授業の表現活動（書く、問答等）とICT活用（英語入力）が全国を大きく上回る。特に「書いてまとめる活動」や「日常で英語を使う機会」の多さは本校の指導の成果である。

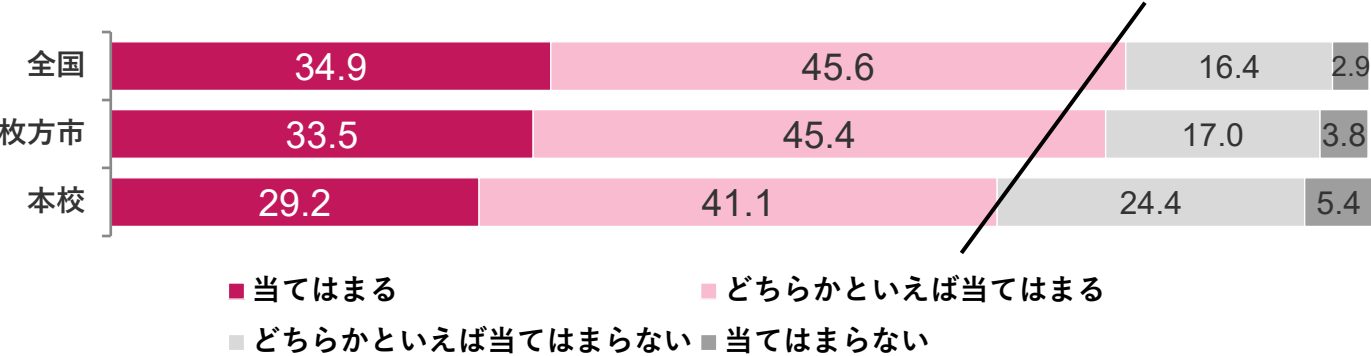
質問紙調査の結果 【課題が見られた項目】

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

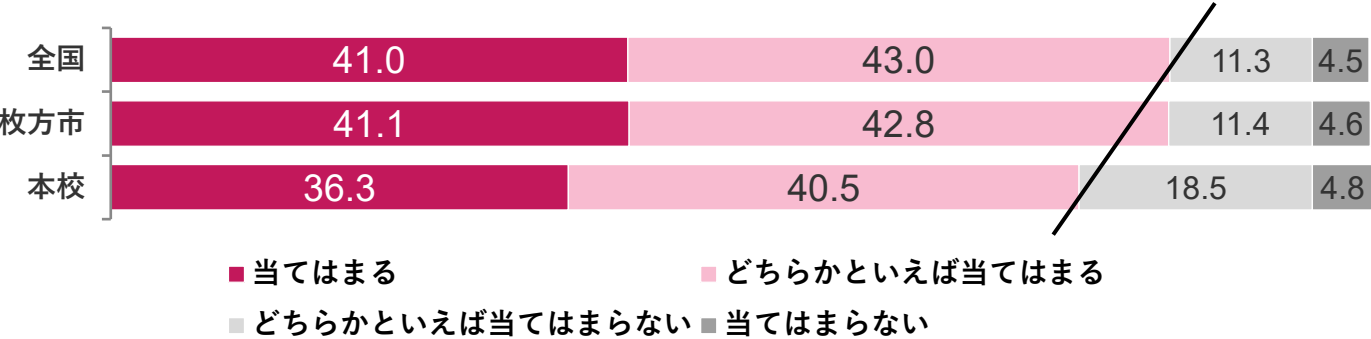
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



(考察)

就寝時刻の規則性が全国と比べかなり低い。生活リズムの乱れは学習意欲・集中力に直結するので、ご家庭の協力をお願いします。

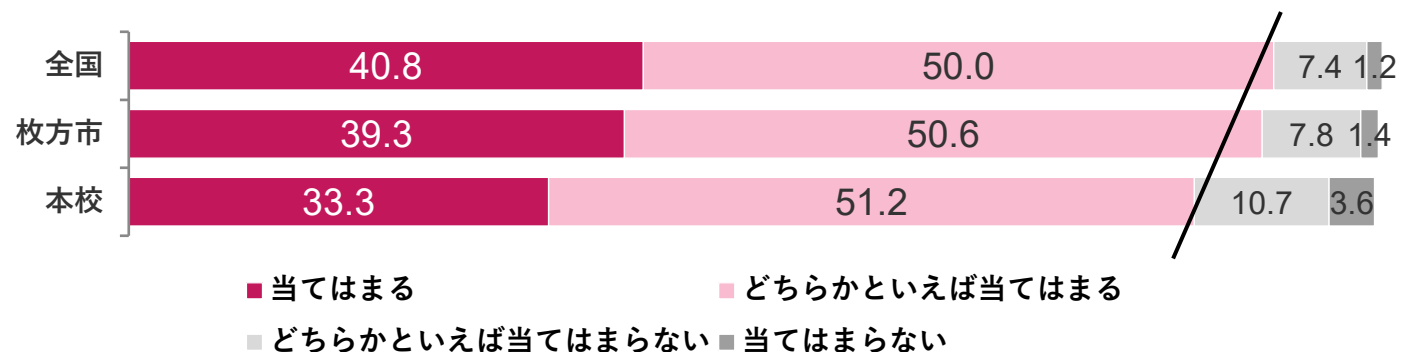
自分には、よいところがあると思いますか



(考察)

「学級の心理的安全性」は全国と比べ極めて高い一方、「自己肯定感」「友達関係満足度」に課題。集団としては安全でも個の自己有用感に差があると考えられる。

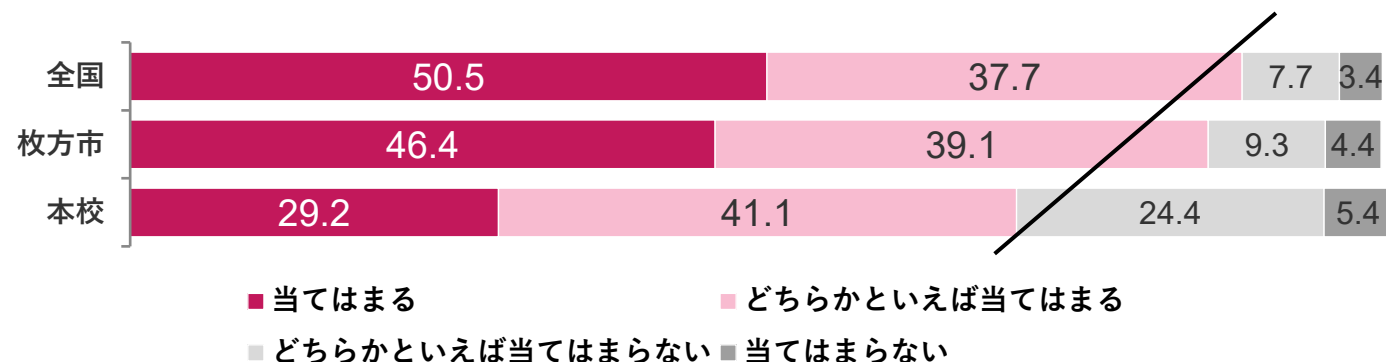
人が困っているときは、進んで助けていますか



(考察)

規範意識は全国並みだが「実際の援助行動」がやや低い。
意識を行動へ移すことに課題がある。

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

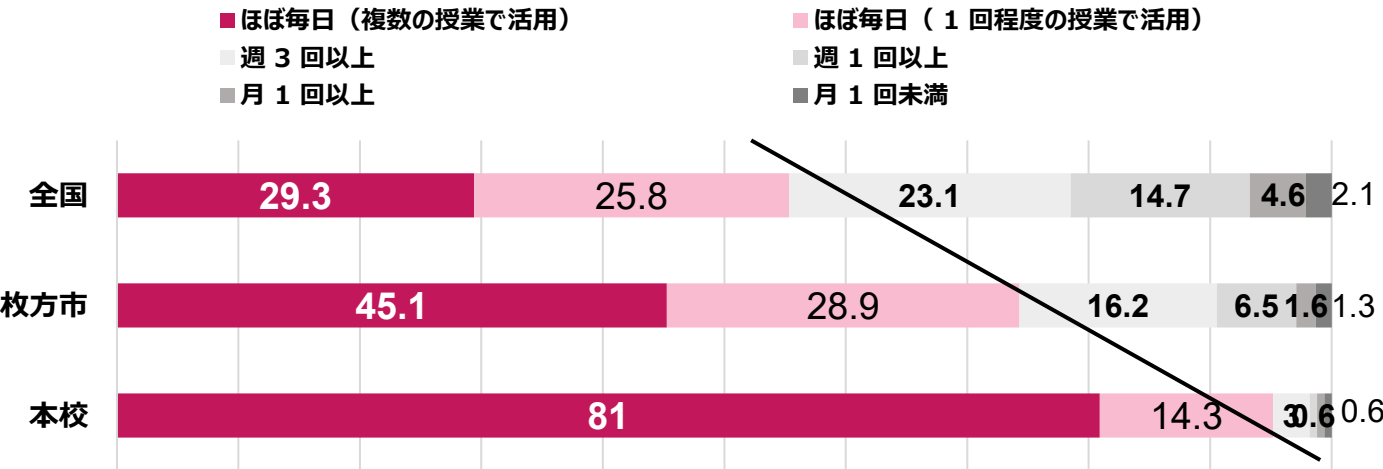


(考察)

国語への「得意意識」「好き」「有用感」が揃って低下しており、教科への内発的動機づけに課題がある。

質問紙調査の結果【その他】

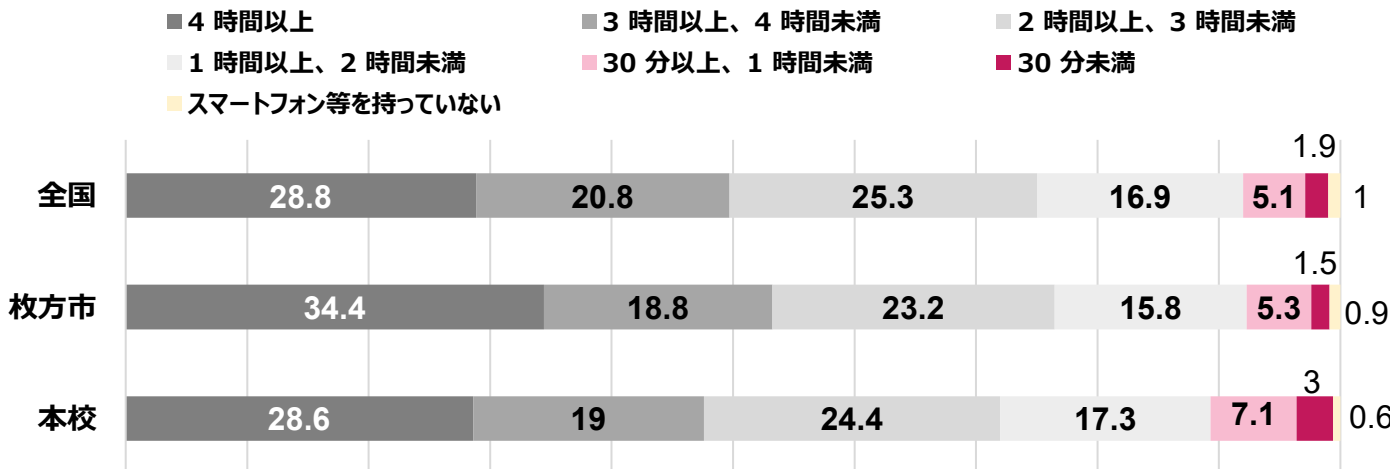
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した頻度



（考察）

ほぼ毎日、効果的にタブレット等を使っているため、ICT活用の実践力が高まっていると考えられる。

1 日当たりのスマートフォン等でSNSや動画視聴する時間



（考察）

約半数の生徒が1日に3時間以上のSNSや動画視聴をしています。SNSや動画視聴が長いほど、教科の正答率が低いことが確認されており、スマートフォン等は使う時間や目的を意識することが大切です。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

（１）授業改善について

- ◆成果（思考力、データの活用、英作文、記述）を伸ばし、課題（漢字、図形の条件読み取り、英文の概要把握、学びの有用感）を克服するため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実の観点から、次の取組を進めます。
- 「教えから学びへ」の転換
めあてや振り返りを毎時間位置づけ、意欲的に自ら学ぶ「自立した学習者」を育成します。
- 「自己決定」場面の設定
課題設定や解決方法、協働する相手などを生徒自身が選ぶ場面を設けます。
- 課題解決型学習の充実
総合的な学習の時間だけでなく、各教科で、教科書の範囲にとどまらず、社会と結びついた探究的な課題に取り組みます。
- 個別最適な学びと協働的な学びの往還
一人で考える、対話・共有する時間を意図的に組み合わせます。
- 組織的な授業改善
教科部会で授業改善について確認し、相互授業参観で検証します。

（２）家庭学習等について

- ◆授業内容の定着と、生活習慣や自己肯定感などの向上を目指し、次の観点で取り組みます。
- 授業と家庭学習の接続
本時のめあてと連動した課題で、復習や振り返りを行います。
- 自分で計画する家庭学習
一律の課題から、内容や分量、方法を自分で決める「自己調整型家庭学習」を進めます。また、教科書の復習に加え、ニュースや身の回りの出来事など、生活や社会の話題を学びに結びつけます。
- 生活リズムの確立
規則正しい生活と温かな声かけが、お子様の学びと自己肯定感を支えます。引き続きご協力をお願いいたします。
- 家庭と学校をつなぐ声かけ
学習の様子を担任・教科担当が日常的に見取り、必要に応じて声かけや面談を行います。